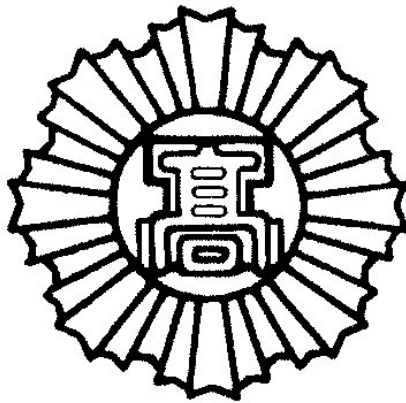


平成 30 年度
学校評価結果報告書
(中間評価)



広島県立広島工業高等学校

目 次

- 1 様式3【平成30年度自己評価シート（中間評価）】・・・・・・・・ 1
- 2 様式4【平成30年度自己評価シート（中間評価まとめ）】・・・ 7
- 3 様式7【平成30年度学校関係者評価シート（中間評価）】・・・ 10

平成30年度自己評価シート(中間評価)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	中村 充宏	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	本年度行動計画	目標値	実績値	評価	理由	担当部等	
1 ものづくり人材の育成							
計画的に資格・検定試験の案内をし、ジュニアマイスター認定者数を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRや資格取得ネームプレート等の掲示物での啓発 ・資格検定試験の日程一覧表を作成する。 ・各学科における2学年終了時の資格取得目標個数の設定 ・資格取得計画の作成 	認定者数 52人	認定者数 19人	C	(教育研究部) ジュニアマイスター前期 ・ゴールド 7名 ・シルバー 12名 計19名 (ブロンズ25名(本年度より)) 資格・検定の日程を一覧にして、全クラスに掲示した。 資格取得ネームプレートを活用し、掲示して啓発した。	教育研究部 2学年会	
ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・より早期の選手候補生徒を確定し、計画的で質の高い指導を実施 ・外部講師、SETの活用 ・教職員の技術向上研修など、指導体制の充実 	中国大会 9 全国大会 7	中国大会 8 全国大会 3	A	(機械科) 若年者ものづくり競技会フライス盤作業敢闘賞受賞。高校生ものづくりコンテスト中国地区大会旋盤作業部門5位に入賞した。	工業科	
				B	(電気科) 電子回路組立部門で県大会に優勝し、中国大会に出場した。		
				A	(建築科) 若年者ものづくり競技会建築大工敢闘賞受賞。高校生ものづくりコンテスト中国大会木材加工部門で、優勝し、全国大会出場予定。		
				B	(土木科) 高校生ものづくりコンテスト中国大会測量部門で3位、全国大会出場を逃した。		
				B	(化学工学科) 高校生ものづくりコンテスト広島県大会優勝と2位に入賞したが、中国地区大会では2位となり、全国大会出場できなかった。		
工業分野の有識者と連携し、実践的な知識・技術・技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・熟練技能者等による生徒への指導の参観 ・熟練技能者等の教職員研修での活用 	12回	8回	A	SET(Super Engineering Teacher)や熟練技能者による技能向上のための授業を実施した。	工業科	
各学科が推奨する工業分野の資格を取得する。 機 械 科: 技能検定(普通旋盤2・3級, 鑄造2・3級, フライス盤作業2・3級, 機械検査作業2・3級, 機械プラント製図2・3級)	<ul style="list-style-type: none"> ・熟練技能者等の教職員研修での活用 ・指導体制の整備 ・資格取得意識の向上のための啓発 	取得者数 100人	取得者数 55人	A	(機械科) 前期技能検定の状況 3級技能士45人 2級技能士10人 総計55人	工業科	
		取得者数 100人	取得者数 68人	A	(電気科) 第2種上期受験結果68人合格(受験者81人)で、ある程度成果を得た。現在、第1種(受験62人)ならびに第2種下期(受験6人)について補習を行い指導中である。		

電 気 科:第1種・第2種 電気工事士 建 築 科:建築施工管理 士2級+技能検 定(左官2・3 級,とび2・3 級,建築大工 2・3級) 土 木 科:2級土木施工管理 技術検定+測 量士,測量士補 化学工学科:危険物取扱者	取得者数 85人	取得者数 40人	B	(建築科) 建築施工管理技術検定2級 8人が取得した。技能検定 は,建築大工3級4人,とび 3級11人,左官3級17人, 前期で合計40人取得した。
	取得者数 15人	取得者数 8人	B	(土木科) 測量士補1人,2級土木施 工管理技術検定7名で計8 名が合格した。
	取得者数 15人	取得者数 11人	A	(化学工学科) 危険物取扱者乙種1類2名 2類3名 3類1名 4類2名 5類1名 6類2名の11名が 合格した。

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ジュニアマイスター認定者数は,本年度前期が19名となった。生徒が資格取得へ向けて計画がしやすいよう,資格検定の日程表を作成させた。また,今年度はPTA総会の資料に資格検定の日程表を載せ,保護者の理解も得られるよう工夫した。
- 士気の向上のため,資格取得ネームプレートを随時計画的に更新している。
- 年度当初に取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し,クラス掲示し,担任から受検の働きかけを行った。

(2) 課題

- 本年度より,新たにブロンズ認定が可能となり,ゴールド,シルバー認定になるよう指導する必要がある。
- 資格取得や各種検定に継続的に挑戦させていく必要がある。
- 放課後,資格習得のための補習と部活動が競合した。

【今後の改善方策】

- 各専門の技術・技能・知識等習得のため,資格検定の受検は必須であり,各自の中長期的な目標を計画し実行させることが必要である。
- 資格取得ネームプレートで上位資格取得者を掲示し,ジュニアマイスター認定を啓発する。
- 学年会で,各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し,生徒に伝えることで,ジュニアマイスター認定を啓発する。
- 部活動顧問との調整を綿密に行い,補習に参加できなかった生徒への対応をしていく。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 高校生ものづくりコンテスト全国大会 木材加工部門に4年連続で出場する。
- 若年者ものづくり競技会 職種プライス盤作業に広島県代表として出場し,敢闘賞(4位)に入賞した。2年連続の受賞であった。

(2) 課題

- ものづくりに係る競技大会(全国大会)は,木材加工部門が全国大会出場となった。出場する選手の技術・技能向上が進んでおり,簡単に上位に入ることが難しくなっている。全国大会出場に向け,さらなる技能向上の取組が必要である。

【今後の改善方策】

- 加工速度及び作業精度を上げるなど,すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用して,生徒とともに教職員も教授いただく。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- SET及び専門的知識・技術を持つ地域の社会人特別非常勤講師には,授業において専門の技能向上に係る指導を行っていただいた。とりわけ,SETIには放課後も広島版技能検定,国家技能検定対策について,指導をしていただいた。
- SET,企業の熟練技能者の指導により,生徒の知識や技術・技能が向上し,資格・検定取得につながった。

(2) 課題

- 生徒の技能向上には,本来指導する教職員自身がスキルアップしていく必要がある。

【今後の改善方策】

○教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、技術・技能の指導力を高め、SET と協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

学 科	学科が推奨し合格した資格・検定	合格人数
機械科	2 級技能士旋盤作業 (5/6), 2 級技能士フライス盤作業(4/5), 2 級技能士鋳造作業 (1/2), 3 級技能士旋盤作業(10/15)豪雨により, 内 2 名については学科結果待ち, 3 級技能士鋳造(24/33), 3 級技能士機械検査(11/16)	55人 (2名結果待ち)
電気科	第 2 種電気工事士(上期結果 68 人/81 人), 第 1 種電気工事士(受験 62 人) 第 2 種下期(受験 6 人)	68人
建築科	2級建築施工管理技術検定8人(受検 76人), 建築大工3級4人(受検5人), とび3級11人(受検11人), 左官3級17人(受検18人)	40人
土木科	測量士補 1人(受験 10 人), 2級土木施工管理技術検定7人(受験 26 人)	8人
化学工学科	危険物取扱者乙種 1 類2名 2類3名 3類1名 4類2名 5類1名 6類2名 (受験15人)	11人

(2) 課題

○7月の豪雨の影響で、実技講習に参加できない生徒が若干名生じた。

○資格合格者の増加と、上級の資格取得のための指導にはさらなる教職員の指導力向上が必要である。

【今後の改善方策】

○7月の豪雨の対策として、通常の補習が少なくなる中、授業の中で、資格につながる内容に触れ、指導するなど、工夫した。

○教職員が、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。

2 選ばれる学校づくり						
入学希望者の増加を目指す。	・中学生にわかりやすいオープンスクールの中身づくり ・学校案内(リーフレット)の作成 ・中学校訪問での中学校の教員(進路指導主事・3学年主任・技術の教員)との連携強化	入学者選抜 I・II 平均倍率 1.33 以上	—	A	(総務部) 夏季オープンスクールは、昨年度2日間開催と比較し今年度は1日でも554人となり、上回った。中学校訪問を計画どおり行い、生徒の情報を交換した。	総務部
	・クラブ紹介・オリエンテーション等において、クラブ加入を呼びかける。 ・クラブの成績や結果を年1回以上HPへ掲載する。	運動部県大会入賞 49 以上 運動部中国大会出場 14 以上 運動部全国大会出場 6 以上	運動部県大会入賞 42 運動部中国大会出場 5 運動部全国大会出場 3	B	(総務部) 9月末時点で、県大会入賞数、中国大会・全国大会出場者数は、順調には伸びている。	
		加入率 90.0%以上	加入率 92.41%	B	(総務部) 昨年度と比較し、クラブ加入率は 92.41%となり、上回った。	

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

○夏季オープンスクールは、昨年度2日間で 486 人参加していたが、今年度は工夫し1日で 554 人と上回った。

○夏季オープンスクールに参加した中学生アンケートでは、オープンスクールの内容に対する肯定度は 98.1%でほぼ昨年度の実績値を維持した。

○夏季オープンスクールの学科見学時間を 15 分から 25 分に拡大したことで、想定していた結果以上に好評であった。

(2) 課題

○平成 31 年度入学希望者を増やすため、中学生にPRする取組を継続して行う必要がある。

【今後の改善方策】

- 本校の各中学校担当者が、中学校教員と密に連携し、中学生の参加を募る。
- 中学生が、高校について知りたい、教育内容、主な行事、部活動、進路状況を、パンフレットを配付し、HP等で公開することで、本校の魅力ある情報を提供する。
- OHPIには、中学生が知りたい、見たい内容を、わかりやすく、統一した書式で更新する。

<クラブの活性化>

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 昨年度同時期と比較して9月末時点で、県大会入賞数、中国大会・全国大会出場者数は、順調には伸びている。
- 各学年の加入率は、1年生 93.7%、2年生 87.5%、3年生 92.7%となった。

(2) 課題

- 部活動の県以上の大会での入賞・出場では、まずは放課後等において、生徒に直接指導できる時間を確保する必要がある。
- クラブ活動に入部していない生徒に対して、入部させる手立てを講じる必要がある。

【今後の改善方策】

- 各分掌や学年会で協議し、業務改善を行うことにより、生徒に直接指導できる時間を確保する。
- クラブ活動に加入していない生徒には、担任、副担が学年会やクラブ顧問と協力しながら、部に加入することを促す。

3 教職員の指導力向上の推進						
学校全体で主体的な学びを推進し、組織的に授業改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な研究授業テーマを提示し、全教員が実践する。 ・研究授業週間中に、全教員が他教員の授業を最低1回は見学する。 ・授業アンケート結果から生徒の学習状況を把握し、授業改善を図る。 	研究授業の参加割合 60%	35%	C	6月実施の第1回公開研究授業では、教職員は授業があり、多く参加できず、35%と昨年度(第1回)より減少した。	教務部 教育研究部 教科・学科
		授業評価アンケートの肯定的な評価割合 80%	—	—	第1回授業アンケートを2学期中間考査前後で実施し、11月初旬に集計予定。	
教職員の意欲が高まる取組を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌において、新しいアイデアを出し合い、効率的な業務につながる取組を実施する。 ・各分掌の既存の業務、取組を縮小、廃止し、新しい能率的な取組等を行う。 	「新しいアイデア」、「スクラップ&ビルド」に係る取組数3	3	B	夏季オープンスクールは、業務負担軽減を目的に開催期間2日を1日に短縮した。2月に開催していた学習成果発表会を1・2年中学生の参加を募る冬季オープンスクールとして開催する予定である。行事等で必要となる備品の所在リストやマップを作成中である。 業者企画による進学相談会・講演会、職業ガイダンス、公務員模試などを廃止し、進路LHRや説明会などにより、適切な情報提供・指導を行っている。	全分掌

《主体的な学びを推進し、組織的に授業改善に努める》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 第1回公開研究授業の参加割合は35%で、昨年度(第1回)より減少した。
- 授業アンケートは、現在すべての教科・科目において調査中である。

(2) 課題

- 次回11月2日実施の第2回公開研究授業では、参加割合を増やしたい。
- 公開研究授業が一行事的にこなしている感覚がある。
- 日常の授業において、生徒への疑問の投げかけや、それに答えさせる場面はあるが、そこからさらに、生徒が能動的に課題を発見し、解決しようとする行動につながっていない。

【今後の改善方策】

- 公開研究授業の実施体制を見直し、教員全員参加できるようにする。
- 生徒に授業のねらいや、学習のつながりを具体的に示すことで学習内容に興味・関心を持たせる。
- 課題の発見や、解決的な学習活動をする場面を、意図的に組み込んだ授業づくりを実践する。

《教職員の意欲が高まる取組を図る》

＜「新しいアイデア」、「スクラップ&ビルド」に係る取組＞

【評価結果の分析】

(1)成果

- 夏季オープンスクールは、業務負担軽減を目的に開催期間2日を1日に短縮した。2月に開催していた学習成果発表会を新中学3年生（現1・2年生）の参加を募る冬季オープンスクールとして開催する予定である。
- 進路指導では業務を整理し、教職員が生徒に個別相談・指導を行うことができるようになり、進路探究に関する意識を高めることにつながった。

(2)課題

- 冬季オープンスクールの時期は、中学校によって修学旅行や学年末考査の時期でもあるので、中学校の行事を鑑み計画する必要がある。
- 行事等で必要となる備品等については、業務や行事の準備等をスムーズに行うため、所在を明確にする必要がある。
- 生徒の進路に関して、教職員が情報提供を行うことができるように、情報整理・環境整備を行う必要がある。

【今後の改善方策】

- 冬季オープンスクールは、2月開催する予定であり、中学生の参加数を把握するため、11月の中学校訪問や、開催2か月前に参加人数を調査するなど、計画的に実施する。
- 今年度中には、行事に必要な備品の所在を記したマップを作成し、全教職員に公表し、情報の共有化を図り、業務改善に資する。
- 進路指導では、過去の情報整理やファイルの共有化など、適切に情報提供を行うため、効率的に業務を進めていく。

4 安全・安心・清潔な学校づくり						
安全で清潔な学習環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の整理整頓を定期的実施(生徒の自主的な環境整備を目指す) ・生徒保健委員会の充実 	大掃除実施数 12回	6回	A	計画どおり実施していて、常に校内美化は保たれている。	保健厚生部
	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の学級担任、保護者との連携(生活習慣の改善) ・遅刻ゼロ週間での取り組み強化 ・生徒指導だよりの発行 ・生徒指導に係る教材の作成 	年間1日平均遅刻件数1.20(人/日)以下	1.03(人/日)	B	(生徒指導部) 全体的に浸透してきているが、まだ意識が低い部分がある。 (1学年会) ・生徒には日頃のSHRや終礼はもとより、集団宿泊訓練や学年集会等を通して高校生活のあり方や規律を指導した。また保護者への連絡は早期に適宜行うようにした。	生徒指導部 1学年会

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

【評価結果の分析】

(1)成果

- 校内美化は常に保たれており、来校者からも、オープンスクールのアンケート結果でも、“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。
- 体育祭のほか学校行事前に、教職員と生徒が、自主的に校内の清掃や草刈りを行った。

(2)課題

- 継続して、学校の環境・衛生を良くするため、安全で清潔な環境で学べるよう、校内の美化を保つ必要がある。
- 自主的・主体的に環境整備に取り組める生徒の育成が必要である。

【今後の改善方策】

- 「自分たちの学ぶ場は自分たちできれいに」「掃除のできる生徒に」「常に来校者を迎えられる環境に」と自主的・主体的に取り組めるよう、年度後半についても、計画どおり、校内美化活動をしっかりと丁寧にかつ組織的に実施する。

<基本的な生活習慣の確立>

【評価結果の分析】

(1) 成果

○登校遅刻に関して、9月末現在で95件であり、1日あたりの件数は、1.03件(人/日)と、目標値より下回る結果である。近年減少傾向にあったが、登校遅刻が+14件と増加している。特に1年生の登校遅刻が全体の44%を占めており目立っている。特定のクラス、生徒で複数の「体調不良」、「寝坊」という理由がある。

○授業遅刻に関して、9月末現在で447件であり、前年度比+91件と増加している。1年生が48%を占めている。未だに、「トイレ」での退出で遅れる(中抜け)があるが、特定のクラスにおいて移動教室時の集団での授業への遅れがあった。

○問題行動に関して、前年度比+6件増加した。特に、いじめによるものが目立ち3件7名の指導を行っている。集団の一員のなかで規範意識の軽薄さが目立ち、軽率な言動や行動から問題行動に発展している。

(2) 課題

○一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。

○登校遅刻及び授業遅刻の減少、遅刻ゼロ日を増加させる。

【今後の改善方策】

○生徒の意識向上も必要だが、教員の意識向上も必要である。生活及び授業での規律指導を徹底する。

○頭髪服装指導、校門指導、巡回指導を継続して実施する。より密な教職員間の連携、情報共有を行い組織的に指導していく。

5 生徒の進路希望を実現						
就職希望者の内定率100%、学校長推薦者・大学進学者の学力向上、3学年生徒の進路決定率100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題の収集と内容の分析 生徒への的確な情報提供 面接等の指導体制の改善 大学等の入学までのより具体的な目標設定の徹底 個別面談を通して学習への動機づけ 	就職試験1次合格率	94.4%	B	(進路指導部) 就職試験1次合格率は94.4%となり、昨年度と同水準となった。学校長推薦者・大学進学希望者の1学期5段階平均は4.03となり、目標値に到達した。山口大学に2名、大分大学に1名が挑戦した。 (3学年会) 進路実現に向けたLHRを4回、就職希望者の履歴書・面接指導、進学希望者の自習室指導を、夏休みの多くの日で行った。学習状況に基づき、進路についての三者面談を6、8月に実施した。	進路指導部 3学年会
		96.0%				
		3学期末5段階平均	4.01			
		3年1学期5段階平均	4.00	4.03		

<<就職希望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%を達成する>>

【評価結果の分析】

(1) 成果

○就職希望者の内定率は94.4%となり、高水準となった。

○第1期(9月30日採用試験)時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者210名中、187名(12名結果待ち)の生徒が1回目の採用試験で内定した。

○担任・3学年教員による進学希望者の志望理由・面接指導、学科教員の専門教科の補習、進路指導部の2年3学期からの放課後受験対策補習・定期考査毎の受験計画指導により、高く目標を持ち計画的にAO入試から頑張ろうとする生徒が増え、自主的に学ぶ雰囲気が高まった。

○進路探究について、進路LHR、進路希望調査、三者懇談、また応募前見学、オープンキャンパス参加を促し、的確に情報を提供した。

○進学者の学力向上のために、学習室における個別指導及び補習を計画的に実施した。学力についての情報共有を促進した。

(2) 課題

○就職1次試験の不合格理由について、筆記試験と面接試験のどちらが主な原因なのか検討し、不合格生徒への取組が必要である。

【今後の改善方策】

○第1期就職試験不合格生徒については、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。

○国公立大学等進学者を中心に引き続き、学力試験及び小論文、志望理由書、面接等の指導を徹底して行う。

○進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。

○2年3学期に志望理由を生徒に書かせ、添削を受けさせ、基本的な志望理由書について学び、3年で進路を決める意識を高める。

平成 30 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	中村 充宏	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を 52 名以上とする》

○ジュニアマイスター認定者数は、本年度前期が 19 名となった。生徒が資格取得へ向けて計画がしやすいよう、資格検定の日程表を作成させた。また、今年度は PTA 総会の資料に資格検定の日程表を載せ、保護者の理解も得られるよう工夫した。

○士気の向上のため、資格取得ネームプレートを随時計画的に更新している。

○年度当初に取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し、クラス掲示し、担任から受検の働きかけを行った。

○本年度より、新たにブロンズ認定が可能となり、ゴールド、シルバー認定になるよう指導する必要がある。

○資格取得や各種検定に継続的に挑戦させていく必要がある。

○放課後、資格習得のための補習と部活動が競合した。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

○高校生ものづくりコンテスト全国大会 木材加工部門に4年連続で出場する。

○若年者ものづくり競技会 職種フリス盤作業に広島県代表として出場し、敢闘賞(4位)に入賞した。2年連続の受賞であった。

○ものづくりに係る競技大会(全国大会)は、木材加工部門が全国大会出場となった。出場する選手の技術・技能向上が進んでおり、簡単に上位に入ることが難しくなっている。全国大会出場に向け、さらなる技能向上の取組が必要である。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○SET及び専門的知識・技術を持つ地域の社会人特別非常勤講師には、授業において専門の技能向上に係る指導を行っていただいた。とりわけ、SETには放課後も広島版技能検定、国家技能検定対策について、指導をしていただいた。

○SET、企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。

○生徒の技能向上には、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

○学科推奨の資格・検定取得の啓発や指導に取り組んだ結果、機械科は 55 人、電気科が 68 人、建築科 40 人、土木科は 8 人、化学工学科は 11 人合格した。

○7月の豪雨の影響で、実技講習に参加できない生徒が若干名生じた。

○資格合格者の増加と、上級の資格取得のための指導にはさらなる教職員の指導力向上が必要である。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

○夏季オープンスクールは、昨年度2日間で 486 人参加していたが、今年度は工夫し1日で 554 人と上回った。

○夏季オープンスクールに参加した中学生アンケートでは内容に対する肯定度は 98.1%でほぼ昨年度の実績値を維持した。

○夏季オープンスクールの学科見学時間を 15 分から 25 分に拡大したことで、想定していた結果以上に好評であった。

○平成 31 年度入学希望者を増やすため、中学生にPRする取組を継続して行う必要がある。

＜クラブの活性化＞

○昨年度同時期と比較して9月末時点で、県大会入賞数、中国大会・全国大会出場者数は、順調には伸びている。

○各学年の加入率は、1年生 93.7%、2年生 87.5%、3年生 92.7%となった。

○部活動の県以上の大会での入賞・出場では、まずは放課後等において、生徒に直接指導できる時間を確保する必要がある。

○クラブ活動に入部していない生徒に対して、入部させる手立てを講じる必要がある。

《主体的な学びを推進し、組織的に授業改善に努める》

○第1回公開研究授業の参加割合は35%で、昨年度(第1回)より減少した。

○授業アンケートは、現在すべての教科・科目において調査中である。

○次回11月2日実施の第2回公開研究授業では、参加割合を増やしたい。

○公開研究授業が一行事的にこなしている感覚がある。

○日常の授業において、生徒への疑問の投げかけや、それに答えさせる場面はあるが、そこからさらに、生徒が能動的に課題を発見し、解決しようとする行動につながっていない。

《教職員の意欲が高まる取組を図る》

＜「新しいアイデア」、「スクラップ&ビルド」に係る取組＞

○夏季オープンスクールは、業務負担軽減を目的に開催期間2日を1日に短縮した。2月に開催していた学習成果発表会を新中学3年生(現1・2年生)の参加を募る冬季オープンスクールとして開催する予定である。

○進路指導では業務を整理し教職員が生徒に個別相談・指導を行うことができるようになり進路探究に関する意識を高めることにつながった。

○冬季オープンスクールの時期は、中学校によって修学旅行や学年末考査の時期でもあるので、中学校の行事を鑑み計画する必要がある。

○行事等で必要となる備品等については、業務や行事の準備等をスムーズに行うため、所在を明確にする必要がある。

○生徒の進路に関して、教職員が情報提供を行うことができるように、情報整理・環境整備を行う必要がある。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

○校内美化は常に保たれており、来校者からも、オープンスクールのアンケート結果でも、“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。

○体育祭のほか学校行事前に、教職員と生徒が、自主的に校内の清掃や草刈りを行った。

○継続して、学校の環境・衛生を良くするため、安全で清潔な環境で学べるよう、校内の美化を保つ必要がある。

○自主的・主体的に環境整備に取り組める生徒の育成が必要である。

＜基本的な生活習慣の確立＞

○登校遅刻に関して、9月末現在で95件であり、1日あたりの件数は、1.03件(人/日)と、目標値より下回る結果である。近年減少傾向にあったが、登校遅刻が+14件と増加している。特に1年生の登校遅刻が全体の44%を占めており目立っている。特定のクラス、生徒で複数の「体調不良」、「寝坊」という理由がある。

○授業遅刻に関して、9月末現在で447件であり、前年度比+91件と増加している。1年生が48%を占めている。未だに、「トイレ」での退出で遅れる(中抜け)があるが、特定のクラスにおいて移動教室時の集団での授業への遅れがあった。

○問題行動に関して、前年度比+6件増加した。特に、いじめによるものが目立ち3件7名の指導を行っている。集団の一員のなかで規範意識の軽薄さが目立ち、軽率な言動や行動から問題行動に発展している。

○一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。

○登校遅刻及び授業遅刻の減少、遅刻ゼロ日を増加させる。

《就職希望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%を達成する》

○就職希望者の内定率は94.4%となり、高水準となった。

○第1期(9月30日採用試験)時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者210名中、187名(12名結果待ち)の生徒が1回目の採用試験で内定した。

○担任・3学年教員による進学希望者の志望理由・面接指導、学科教員の専門教科の補習、進路指導部の2年3学期からの放課後受験対策補習・定期考査毎の受験計画指導により、高く目標を持ち計画的にAO入試から頑張ろうとする生徒が増え、自主的に学ぶ雰囲気が高まった。

○進路探究について、進路LHR、進路希望調査、三者懇談、また応募前見学、オープンキャンパス参加を促し、的確に情報を提供した。

○進学者の学力向上のために、学習室における個別指導及び補習を計画的に実施した。学力についての情報共有を促進した。

○就職1次試験の不合格理由について、筆記試験と面接試験のどちらが主な原因なのか検討し、不合格生徒への取組が必要である。

2 今後の改善方策

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする》

○各専門の技術・技能・知識等習得のため、資格検定の受験は必須であり、各自の中長期的な目標を計画し実行させることが必要である。

○資格取得ネームプレートで上位資格取得者を掲示し、ジュニアマイスター認定を啓発する。

○学年会で、各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、生徒に伝えることで、ジュニアマイスター認定を啓発する。

○部活動顧問との調整を綿密に行い、補習に参加できなかった生徒への対応をしていく。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

○加工速度及び作業精度を上げるなど、すべての面で質の高い練習を実施する。

○社会人外部講師であるSETを活用して、生徒とともに教職員も教授いただく。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○生徒の技能向上には、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

○7月の豪雨の対策として、通常の補習が少なくなる中、授業の中で、資格につながる内容に触れ、指導するなど、工夫した。

○教職員が、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

○本校の各中学校担当者が、中学校教員と密に連携し、中学生の参加を募る。

○中学生が、高校について知りたい、教育内容、主な行事、部活動、進路状況を、パンフレットを配付し、HP等で公開することで、本校の魅力ある情報を提供する。

○HPIには、中学生が知りたい、見たい内容を、わかりやすく、統一した書式で更新する。

<クラブの活性化>

- 各分掌や学年会で協議し、業務改善を行うことにより、生徒に直接指導できる時間を確保する。
- クラブ活動に加入していない生徒には、担任、副担任が学年会やクラブ顧問と協力しながら、部に加入することを促す。

<主体的な学びを推進し、組織的に授業改善に努める>

- 公開研究授業の実施体制を見直し、教員全員参加できるようにする。
- 生徒に授業のねらいや、学習のつながりを具体的に示すことで学習内容に興味・関心を持たせる。
- 課題の発見や、解決的な学習活動をする場面を、意図的に組み込んだ授業づくりを実践する。

<教職員の意欲が高まる取組を図る>

<「新しいアイデア」、「スクラップ&ビルド」に係る取組>

- 冬季オープンスクールは、2月開催する予定であり、中学生の参加数を把握するため、11月の中学校訪問や、開催2か月前に参加人数を調査するなど、計画的に実施する。
- 今年度中には、行事に必要な備品の所在を記したマップを作成し、全教職員に公表し、情報の共有化を図り、業務改善に資する。
- 進路指導では、過去の情報整理やファイルの共有化など、適切に情報提供を行うため、効率的に業務を進めていく。

<安全で清潔な学習環境をつくる>

<美化活動の徹底>

- 「自分たちの学ぶ場は自分たちできれいに」「掃除のできる生徒に」「常に来校者を迎えられる環境に」と自主的・主体的に取り組めるよう、年度後半についても、計画どおり、校内美化活動をしっかりと丁寧にかつ組織的に実施する。

<基本的な生活習慣の確立>

- 生徒の意識向上も必要だが、教員の意識向上も必要である。生活及び授業での規律指導を徹底する。
- 頭髪服装指導、校門指導、巡回指導を継続して実施する。より密な教職員間の連携、情報共有を行い組織的に指導していく。

<就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する>

- 第1期就職試験不合格生徒については、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。
- 国公立大学等進学者を中心に引き続き、学力試験及び小論文、志望理由書、面接等の指導を徹底して行う。
- 進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。
- 2年3学期に志望理由を生徒に書かせ、添削を受けさせ、基本的な志望理由書について学び、3年で進路を決める意識を高める。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

学校関係者評価においては、目標設定、取組み、評価結果の分析、今後の改善方策等、概ね適切であると評価された。その中で、次のことについて、御助言があった。このことについて、次のとおり、改善に取り組んでいく。

<目標値の設定について>

【助言1】目標値を上半期と下半期に分けて評価した方がわかりやすいのではないか。

- 来年度の目標値については、年度当初に学校関係者評価委員に上半期と下半期に分けられるものは御提示し、評価いただく。

<評価結果の分析について>

【助言2】評価結果の分析は、ほとんど学校の実績をもとに評価しているが、外部資料との比較がいのでは。

- 本校実績をもとに昨年度ベースで評価結果を分析しているものが多かったが、下半期からは根拠となる外部の資料を鑑み、分析、評価する。

学校関係者評価委員からは、さらなる飛躍を期待されており、全教職員一丸となって取り組みたい。

平成30年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成30年10月31日

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	中村 充宏	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	・昨年の実績をベースにしている。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	・目標値を上半期と下半期に分け設定し, 評価した方がわかりやすい。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	・授業において, 外部講師を活用した取組が良い。
評価結果の分析の適切さ	B	・外部の資料との比較がいないのではないか。 ・外部の資料を活用する必要がある。
今後の改善方策の適切さ	A	・(改善に向け,)よくやっている。
総合評価	A	・生徒の進路希望を実現させている。